

保育計画成果報告書

法人名	社会福祉法人 釜城会
施設名	神戸エンゼル保育園
報告者（役職）	輔信文万（副園長）
住所・連絡先	神戸市長田区長楽町4丁目4番3号
	☎ (078) 732-7887
	E-mail kobe-enzeru@xrj.biglobe.ne.jp

○タイトル（保育計画）

頑張れ！ エンゼルっ子

○主な助成備品

<ul style="list-style-type: none"> ・ライトマット ・紅白玉入れ台 ・玉入れボールセット ・ソフティボール ・キッズボール ・平均台

1. 保育計画策定の目的

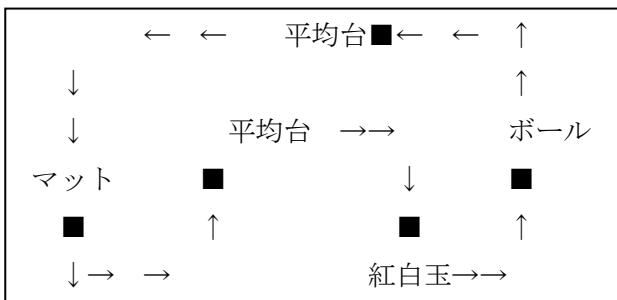
神戸エンゼル保育園では、園児たちの全体的総合的な運動あそびを通じて、幼児期の心身の調和的発達を促し、健全な心身の基礎をつくることを目標とする。

2. 具体的な実施内容

器械運動（サーキット運動など）

- * マット・・・動物表現・横転・前転・側転
- * 紅白玉・・・玉投げ遊び・玉入れ遊び・玉入れ競争
- * ボール・・・投げる・転がす・受ける・ドッジボール遊び
- * 平均台・・・いろいろな歩き方で移動する。

上記の遊具をコース的につなげて活動を行う。



【マット運動】

いろいろな動物表現あそびを通して、マットの上でさまざまな歩き方、跳び方、転がり方などを楽しむ。

- * ペンギン・・・両膝立ち歩き
- * カメ・イヌ・・・四つんばい
- * キリン・・・・・・つまさき立ち
- * ワニ・・・・・・ほふく前進
- * カエル・ウサギ・・・両足とび
- * イモムシ・・・横転・友だちと組んで横転
- * マルムシ・・・前転

【平均台運動】

2本横に並べて太くしたところを歩き、平均台の下をくぐったり、座って前進するなどして、平均台に慣れていった。次第と平均台の上でバランスをとって歩いたり、ポーズをしたり、横歩き、後退、積木などを置いて、障害物越えをしたり、両手で握って腕だけで前進するあそびを楽しんだ。

【ボール】

幼児クラスでは、ボールを高く投げる、受ける、的にあてる、カゴに入れる。友だちとボールの受け合いをする。集団でボール送りやボールころがしをする。ドッジボールあそびやサッカーあそびやラグビーあそびなど、全身を使ってあそんだり、友だちと競ったり、協力したりする運動を行った。

乳児クラスでは、友だちとサッカーのように蹴りあっこや走って追いかけてキック、投げ合いっこしたりもしながらあそびを楽しんだ。

【玉入れ】

玉入れの玉を使って投げる。的（人）に投げる→腕の使い方（投げ方）、的に向かって投げる動きや意識を向けること。

2チームに分かれ、赤組→赤玉、白組→白玉を投げるあそびなどを行った。

【紅白玉】

玉入れをして、ねらって投げ入れるということを楽しんだ。自分とカゴとの距離感を育てた。



3. その成果と評価

マット運動では、動物表現で好きな動物（馬・うさぎ・ペンギン・ワニなど）になって、走ったり跳んだりして、マットに慣れ親しむことができた。また、色の違うマットを使い、色を判別する力、指定された場所（マット）に留まることができるようになったり、マットの上で色んな動き（転がる、ハイハイなど）をして、様々な体の動かし方を体験することができた。

また、転がる運動では、はじめは、ななめに転がっていたが、繰り返すうちに、だんだんとまっすぐ転がることができるようになった。どうすれば、まっすぐに転がるができるようになるかを考え意識して転がるようになった。「サツマイモ コロコロ。ジャガイモ コロコロ。二人ゴロゴロなどを楽しみながら、転がり方によって、バランスをとり、自分のからだをコントロールできるようになったり、腕や脚の筋力を高めることにつながった。また、友だちといっしょに転がることにより、協調性を養うことができた。

はじめは前転をこわがっている子もいたり、頭のとっぺんを床につけている子もいたが、援助やアドバイスによって、徐々にうまく回転できるようになった。

平均台では、手をついて歩く、座って前進するなどを楽しんだ。砂場のふちを歩けるのに、平均台は怖い子がいたが、次第に高さに慣れていった。そして、両手を広げてバランスをとりながら歩き、だんだんと安定して歩くことができるようになり、補助なしでも歩けるようになり、次第に、子どもたちの平衡感覚が身についてきた。

ボール運動は、一人でボールを上投げて、両手で受けたり、二人でボールのやりとりを楽しみながら、ボールの扱いに慣れ、巧緻性を高めていくことができた。

また、集団ではドッチボールあそびを喜び、ボールあそびを通じて、しっかりと投げることができるようになったり、ボールの動きをよく見て、素早くよけたり、受けたりすることができるようになった。子どもたちの敏捷性や瞬発力を養うことができた。

また、ゲームなどの中で、ルールを理解し、守って、友だちとゲームする楽しさを味わった。サッカーあそびやラグビーあそびをして、全身を使ってあそんだ。競ったり、協力したりする楽しさを味わった。



玉入れは、玉入れの玉を使って投げたり、的（人）に投げたり、カゴをねらって投げ入れたりしながら、自分と的との距離感を育てた。腕の使い方、的に向かって投げる動きの中で、注意力・集中力を養うことができた。2チームに分かれ、赤組→赤玉、白組→白玉を投げるあそびの中で、自分や友だちが何チームなのか、チームの認識をし、競争する楽しさを味わった。

それぞれマット・平均台・ボールなどの遊具の特性や、色々な使い方を知り、安全に楽しく遊べるようになった。各遊具を利用して、子どもたちの平衡性・協応性・敏捷性・リズム感や筋力などの運動要因を高めると共に、集中力・判断力・頑張る気持ちを養うことができた。遊びを通じて器械遊具に親しみ、器械技能を身につけることができた。

4. 今後の課題と展望

これまでの成果を伸ばしていくために、神戸エンゼル保育園では、園庭も広くなく、開園当時より児童数が増えてきたので、今後とも運動遊具を有意義に使い、人数に対応できるように各運動用具も整備し、出来るようになる達成感を体験していきたいと考えています。そしてまた、運動あそびを通じて、「いのちを大切に作る子ども」をモットーに、自分を、みんなを、自然を大切に、健康で活動的な子ども、思いやりのある豊かな心をもつ子ども、素直で協調性のある明るい子どもを育み、よりよい保育の充実に努めてまいりたいと思っています。

以上